

Social Welfare Corporation Kounotori fukushikai
967-1 Kounosu, Kounosu City, Saitama, 365-0028, JAPAN
TEL +81-48-577-7780, FAX +81-48-577-7360
✉ d.shimizu@nonpi-fukushi.com
HP <https://www.nonpi-fukushi.net>



■ Overspaarne

田島>

日本とは違い閉塞性を全く感じない雰囲気がとても印象的でした。

使い慣れた自宅の家具、ナイフなどの調理器具も家と同じ状態で施錠せず保管され、同じ建物の中には歯科や一般人の住居もあり施設というよりも「住居」といえる生活の場所があり、人としての生活場所がしっかり担保され大変感動しました。

清水>

一人一人のできることを考え、本当に最期まで「その人らしく」をサポートしていることに感動致しました。

また、一つの建物の中に「介護施設」「一般住居」「オフィス」「医療」があり、全ての人が障壁なく生活をしているという事を見ることができたことは、今後の「介護施設」のあり方を考えていく中で非常に勉強になりました。

■ Leyden Academy

田島>

高齢者の老いに関して科学的且つ実践的な研究と活動普及を行う機関でしたが、高齢者だけでなく、一般の人々への健康科学にも応用できる内容であったと思います。

地域社会とのコミュニケーションプログラムを企画して運営をサポートするなど、「社会との繋がり」が非常に重要と認識できました。

各論に関しては先進国で様々な研究がされていると思いますが、包括的に研究されている世界で一つの機関かと思います。

柿沼>

老いに対する捉え方、考え方が世界中、劇的に変化している現代において非常に有用な研究と実施調査のエビデンスは貴重。今後世界が直面する高齢化に対し、新たなアプローチの可能性を感じた。

世界で最も病院施設での逝去例が低いオランダにおいて、更なるこうしたアプローチを国ぐるみで行なっている実情には、我が国としても考えさせられるものがある。

医療・介護費の問題は日本また他の先進諸国にとって非常に重大な問題であり、この研究の成果をトライアル的にも早期に日本でも導入すべきと痛感する。

<清水>

今、日本が目指している「地域包括ケアシステム」を実現するためにも本研究所がされている取組み（特に実施調査のエビデンスが取れているもの）を導入することはとても重要なポイントであると感じました。

社会保障費増を抑えるためにも、日本でも本研究所の取組みを医療と福祉が協働して取り組む必要があると感じました。

■Hogeweyk

田島>

「施設」とは言い難く、スーパーやレストラン、カルチャークラブなどが一つにまとまり「街」がそこにありました。

認知症の方も自由に出歩るいていて、驚愕の一言ですが、法やこれまでの慣習など様々な困難や課題を諦めずに理念を追求して実践していく運営サイドのスタッフの強い意志には敬服しました。

「無理だな」とか「〇〇だから・・・」と理由をつけて諦めない姿勢が大変重要な事と再確認できました。

柿沼>

脱帽の一言。この想いや考えがあっても、ここまでやりきるには相当の軋轢、障壁と戦って来た歴史があると思います。

法は誰のため、何のためにあるのか？根源的な問いに対し、これほど具体的に行動・結果で示した例を目の当たりにして、大変大きな勇気を頂いた。

認知症である前に、一人の人間、一人の人格を尊重した姿、圧巻であり、そうあるべきとつくづく思い知らされた。

この様な施設を 20 年も前から発案し、実行して来た方々をとにかく尊敬してやまない。

今後日本も 5 人に 1 人、4 人に 1 人が認知症という時代がすぐそこまで来ている。

その現実において、我々がすべきことをしっかりと考えて行きたい。

人が最後まで人であるべき。未来へと繋がる自然なその姿、サスティナブルな施設運営を我々も模索し、実行して行きたいと強く感じさせられた。

Social Welfare Corporation Kounotori fukushikai
967-1 Kounosu, Kounosu City, Saitama, 365-0028, JAPAN
TEL +81-48-577-7780, FAX +81-48-577-7360
✉ d.shimizu@nonpi-fukushi.com
HP <https://www.nonpi-fukushi.net>



清水>

自分の想像を超越した施設でした。

まさに究極の認知症の方へのケアだと思いました。それに加えて、働くスタッフがストレスなくケアができる環境であると感じました。

日本では、認知症の方に対して抑制（行動制限や生活環境）をすることばかりです。しかし、**Hogeweyk** では全くの正反対であり、自由に何でもできることが症状を和らげ、進行を遅らせて最期まで自分を持ったまま生活ができていたことに感動しました。

それらの環境や取組み 20 年以上も現場で体現されているエロイさんのお話しは、今までの視察の中で最も強く心に刻まれました。

■館林様へ

田島>

館林さん！ 親切な通訳、ご対応本当にありがとうございました！！

柿沼>

大変丁寧にアテンド頂き、本当にありがとうございました！

初日の一施設目に間に合わず、とんだハプニングスタートでしたが、館林さんのお陰で大変楽しく、有意義な旅となりました。

また東京でもお会いできれば最高ですね。今後とも宜しく願いいたします。

清水>

オランダ国の高齢者福祉の最新の取組みを短期間ではありましたが、コンパクトかつ充実した内容にまとめていただきありがとうございました。

単なる通訳ではなく、気持ちの入った通訳やアテンドをしていただけた事にとっても感謝致しております。オランダにおいて、まだまだ勉強することがあると思いますので、次回訪問時も是非ともよろしく願い致します。